

管外研修 共に暮らす

多治見人権擁護委員協議会

実施日 令和6年11月12日(火)
研修先 日本聴導犬協会本部(長野県)

「盲導犬はご存じですか?。介助犬・聴導犬はご存じですか?」施設の方から、私達への質問から管外研修が始まりました。「全国で、実働している盲導犬は約800頭、それに対して、介助犬は約60頭、聴導犬は約50頭です。盲導犬に対して、介助犬や聴導犬はあまり存在が知られていません。」と続けられました。

介助犬は、体の不自由な方が落とされた物を拾ったり、スリッパや靴下を脱がせたりして、生活をサポートします。聴導犬は、来客を知らせたり、目覚ましの音を知らせたりします。戸外に出れば、病院等での待合で呼び出された音を知らせることもします。さらに、聴導犬を連れていけば緊急を知らせる警報時に、周囲の人々に耳の不自由な方の存在を知らせることもできます。そして何より、支援してくれる犬というより、信頼できるパートナーとなっているのです。訓練を受けている犬たちも、賢く素直そうで、実に愛らしい存在でした。

驚いたことに、介助犬や聴導犬は無料で貸与されています。そして、この施設の運営も国からの補助はほとんどなく、寄付金や募金活動で支えられているそうです。障がいのある方々が幸せに暮らせるように、懸命に支える方々や犬の存在に感激してきました。



介助犬の活躍の様子



目覚まし時計の音を知らせて、目覚めを促す。



見学の最後には、訓練中の犬たちと触れあうことができました。



やや寒い一日でしたが、人権擁護委員として介助犬・聴導犬の可愛さと献身さに心が温まる1日となりました。